マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリー（再セットアップ）
- 廃棄／譲渡

など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに - 7 リリース情報について」

もくじ

付録 137

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危 険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』、《　》

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Professional を示します。

Windows Vista

Windows Vista® Businessを示します。

ハードディスク

特に説明がない場合は、HDD（ハードディスクドライブ）とSSD（ソリッドステートドライブ）をまとめて「ハードディスク」と呼びます。

HDD搭載モデル

HDDを搭載しているモデルを示します。

SSD搭載モデル

SSDを搭載しているモデルを示します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブ／DVD-ROMドライブを示します。搭載しているドライブはモデルによって異なります。

ドライブ搭載モデル

DVDスーパーマルチドライブ、DVD-ROMドライブのいずれかを搭載しているモデルを示します。

DVDスーパーマルチドライブ搭載モデル

DVDスーパーマルチドライブを搭載しているモデルを示します。

DVD-ROMドライブ搭載モデル

DVD-ROMドライブを搭載しているモデルを示します。

無線LAN機能搭載モデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

TOSHIBA ecoユーティリティ搭載モデル

TOSHIBA ecoユーティリティをインストールしているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- システムがWindows 7以外のモデルの場合、一部の使用方法や設定方法が異なる場合があります。詳しくは、各種説明書や各ヘルプを確認してください。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Live、Windows Vista、Aero、Excel、MSN、OneNote、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO デュオは、ソニー株式会社の登録商標または商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- xD-ピクチャーカード™は、富士フイルム(株)の商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスター、ウイルスバスタークラウドはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリーを消耗しますので、ACアダプターを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ／電源を切る『セットアップガイド』

9 お願い

- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。

- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター2011 クラウド」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- 「ウイルスバスター2010」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は90日間の使用制限があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書（Windows 7のみ。ほかのOSの場合、『エンドユーザー使用許諾契約書』は付属しています。）をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

10 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

11 H.264/AVC, VC-1and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。（i）AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、（ii）個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP（http://www.mpegla.com）より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE http://www.mpegla.com

1章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

＊ PC引越ナビ搭載モデルのみ

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

Windows XP／Windows Vista／Windows 7

＊ マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP............. Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エディション
Windows Vista......... Microsoft® Windows Vista® の全エディション
Windows 7................ Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

● あらかじめ、「付録 1 - 1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

● USBフラッシュメモリを使用する
● USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
● USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する
● USBフラッシュメモリとDVDを使用する＊1

＊1 ドライブ搭載モデルのみ

前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブル、DVDが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
  移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。
  本製品で使用できるメディアカードについては、「2章 9 いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

移行できる設定とデータ

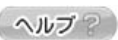
「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- **Internet Explorerの設定＊1**
- **Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定＊2＊4**
- **Microsoft Outlookの設定＊3＊4**
- **[ドキュメント]（または［マイドキュメント]）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上)」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。
前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

3 **［アプリケーション］タブをクリックする**

4 **画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする**

5 **画面の指示に従ってインストールする**

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 **デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする**

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 **画面下の ヘルプ? ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する**

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 **［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
新しいパソコンと前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

移行方法を決める

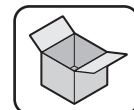
いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

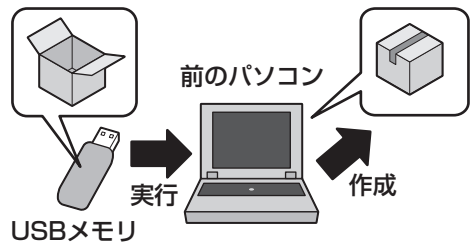
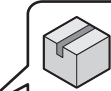
新しいパソコン

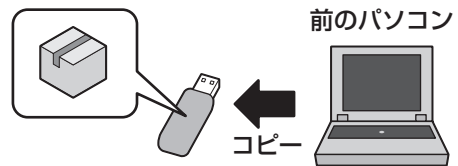
USBメモリ

ネットワーク（有線LAN）
クロスケーブル（有線LAN）
DVD

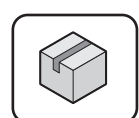
「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

ネットワーク（有線LAN）
クロスケーブル（有線LAN）
DVD

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password＝
```

設定したユーザーパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

参照 パスワード参照について「6章 3 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
HDD Password＝
```

設定したHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
  電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワード参照について「6章 3 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体のハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 F12 キーを押しながら電源スイッチを押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD→eSATA HDD→CD-ROMドライブ→FDD→ネットワーク→USBフラッシュメモリ

別売りのフロッピーディスクドライブが接続されている場合、FDDアイコンを選択すると、フロッピーディスクドライブから起動します。

2 起動したいドライブを ← または → キーで選択し、 ENTER キーを押す

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。
設定方法については、「東芝HWセットアップ」のヘルプをご覧ください。

参照 「東芝HWセットアップ」のヘルプ「6章 1 東芝HWセットアップ」

2 パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

⚠ 警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  ・無線機能は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチでOFFにすることができます。ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無線機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。
  ・保存されていないデータは消失します。
  ・感電、故障のおそれがあります。
  ・次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態をすばやく再現することができます。
スリープはバッテリーを消耗しますので、ACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間などにバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープの場合、それまでの作業内容が消失します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。
スリープの実行方法は『セットアップガイド』を確認してください。

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープを実行することもできます。

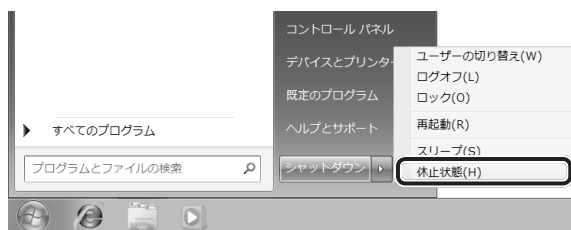
2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインターを合わせる②

2 **表示されたメニューから［休止状態］をクリックする**

メニューが表示されない場合は、▷をクリックしてください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN＋F4キーを押して、休止状態を実行することもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作しないで、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［　システムとセキュリティ］（Windows 7）または［　システムとメンテナンス］（Windows Vista）をクリックする**

3 **［　電源ボタンの動作の変更］をクリックする**

4 **［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをクリックする**

パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 4 で設定した状態へ移行します。

2 ディスプレイを閉じたときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ システムとセキュリティ］（Windows 7）または［ システムとメンテナンス］（Windows Vista）をクリックする**

3 **［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする**

4 **［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをクリックする**

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

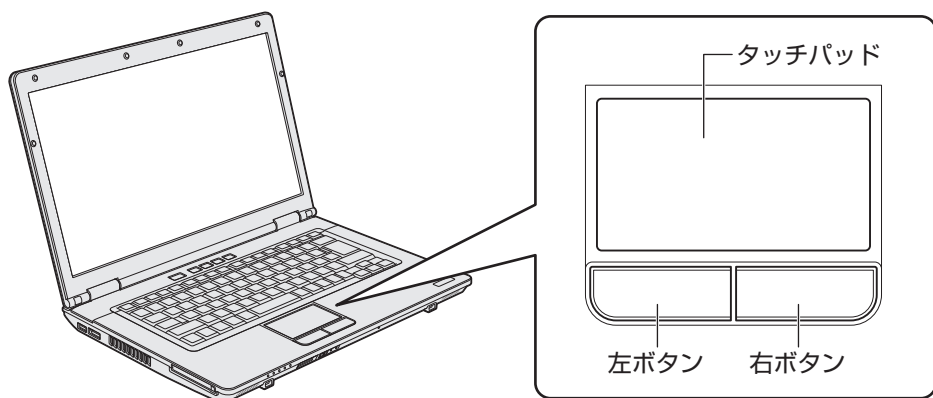
3 タッチパッド

1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

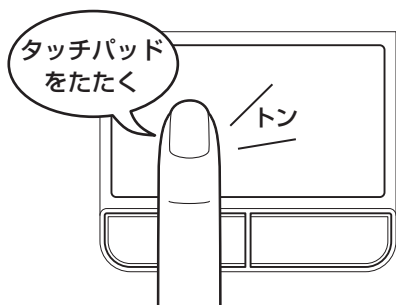
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

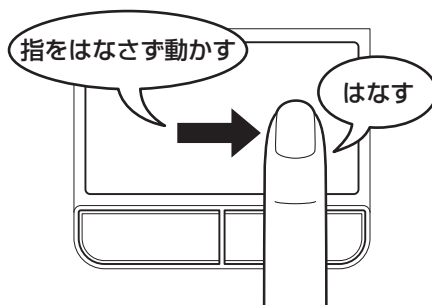
お願い **タッチパッドの操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする

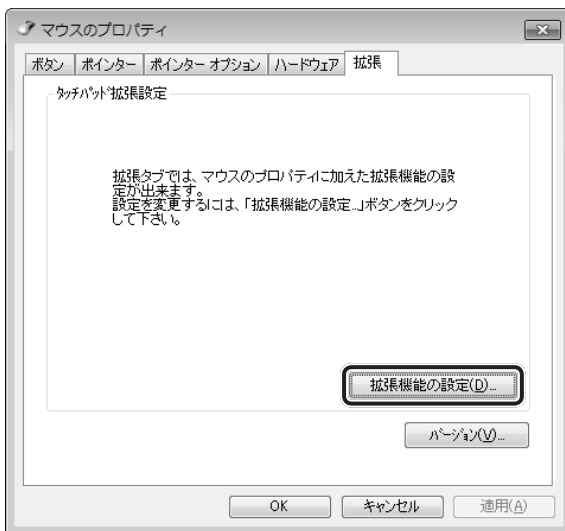
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

3 各タブで機能を設定し、[OK]ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッチパッドの設定方法

[マウスのプロパティ]では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 [拡張]タブで[拡張機能の設定]ボタンをクリックする

[拡張機能の設定]画面が表示されます。

2 ［タッチパッド］タブまたは［その他］タブで各項目を設定する

各項目にポインターを合わせると、画面下部の［説明］欄に詳細が表示されます。

（表示例）

役立つ操作集

タッチパッドを有効／無効にするには

キー操作でタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。

FN キーを押したまま、F9 キーを押すと［タッチパッド］のカードが表示されます。

FN キーを押したまま、F9 キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなすと、無効に設定できます。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応マウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
③ ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする
［拡張機能の設定］画面が表示されます。
④ ［その他］タブの［USBマウス接続時の動作］で［タッチパッドを無効にする］をチェックする
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
［マウスのプロパティ］画面に戻ります。
⑥ ［OK］ボタンをクリックする

FN ＋ F9 キーを押して設定する「タッチパッドON／OFF機能」とは連動していません。
市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

3 2本指を使ったタッチパッドのジェスチャー機能について

タッチパッドは2本指を使った次のようなジェスチャー機能が搭載されています。

ピンチズーム	アプリケーション上の図形やテキストを拡大縮小させます。
パンスクロール	ウィンドウやアイテムを上下左右にスクロールさせます。
ピボットローテーション	アプリケーション上の図形や写真を回転させます。

1 2本指を使った機能の操作方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

3 ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

［拡張機能の設定］画面が表示されます。

4 ［タッチパッド面の設定］の［設定］ボタンをクリックする

［タッチパッド面の設定］画面が表示されます。

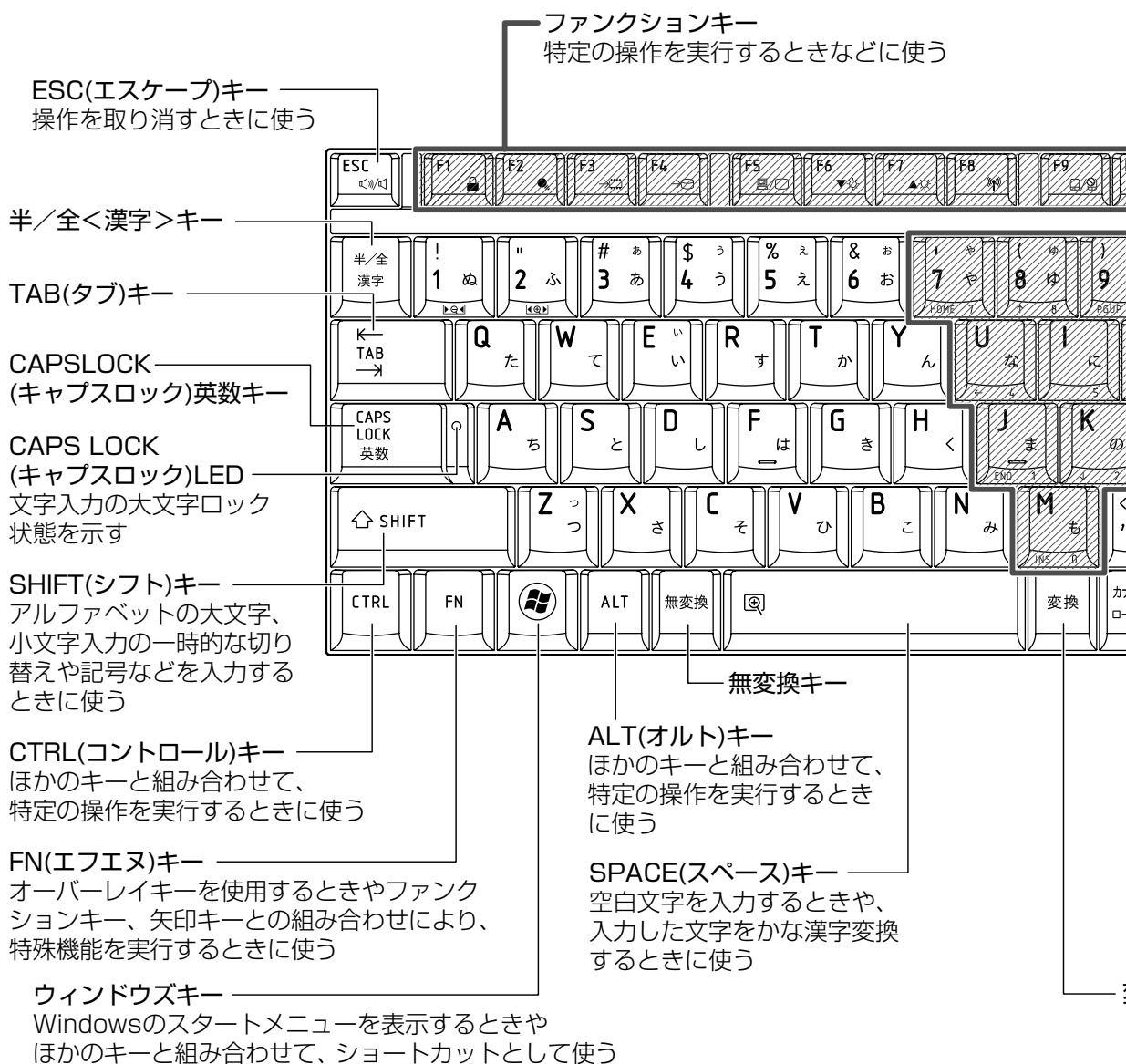
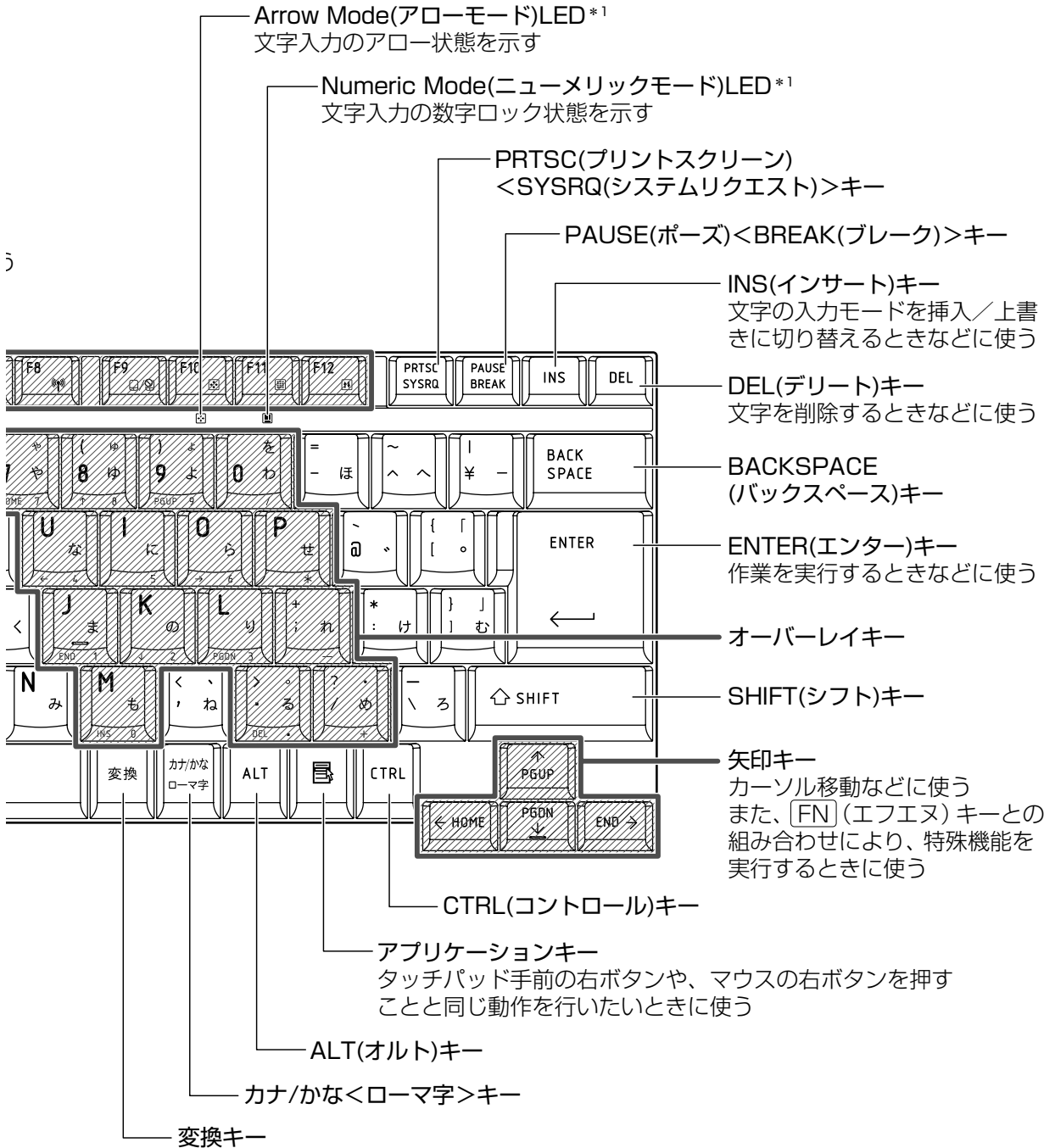
5 ［ジェスチャー］タブで設定する機能にチェックを付ける

それぞれの項目のチェックをはずすと機能が無効になり、チェックを付けると機能が有効になります。
各機能の使いかたについては、［ジェスチャー］タブの画面右側にある ボタンをクリックして機能についての説明ビデオをご覧になるか、画面下側にある［説明］に表示される説明文をご覧ください。

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

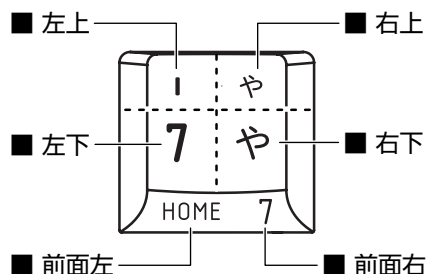
■テンキーを搭載していないモデル

＊1「本節 2 - FN キーを使った特殊機能キー」を確認してください。

■テンキー搭載モデル

ファンクションキー
特定の操作を実行するときなどに使う
ESC(エスケープ)キー
操作を取り消すときに使う
半／全<漢字>キー
TAB(タブ)キー
CAPSLOCK
(キャプスロック)英数キー
Caps Lock
(キャプスロック)LED
文字入力の大文字ロック状態を示す
SHIFT(シフト)キー
アルファベットの大文字、小文字入力の一時的な切り替えや記号などを入力するときに使う
CTRL(コントロール)キー
ほかのキーと組み合わせて、特定の操作を実行するときに使う
FN(エフエヌ)キー
ファンクションキーとの組み合わせにより、特殊機能を実行するときに使う
ウィンドウズキー
Windowsのスタートメニューを表示するときやほかのキーと組み合わせて、ショートカットとして使う
無変換キー
SPACE(スペース)キー
空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するときに使う
変換キー
カナ/かな<ローマ字>キー
ALT(オルト)キー
ほかのキーと組み合わせて、特定の操作を実行するときに使う

PRTSC(プリントスクリーン)＜SYSRQ(システムリクエスト)＞キー
PAUSE(ポーズ)＜BREAK(ブレーク)＞キー
BACKSPACE(バックスペース)キー
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
SCROLL LOCK(スクロールロック)キー
INS(インサート)キー
文字の入力モードを挿入／上書きに切り替えるときなどに使う
DEL(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
HOME(ホーム)キー／PGUP(ページアップ)キー／END(エンド)キー／PGDN(ページダウン)キー
行やページの最初または最後にカーソルを移動したり、ページごとに表示を送ったりするときなどに使う
NUM LOCK(ナムロック)LED
テンキーの数字ロック状態を示す
NUM LOCK(ナムロック)キー
テンキーを数字入力状態にする
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
矢印キー
テンキー
数字の入力に使う
また、数字ロックを解除して矢印キーなどとして使う
SHIFT(シフト)キー
CTRL(コントロール)キー
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンや、マウスの右ボタンを押すことと同じ動作を行いたいときに使う

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFTキーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFTキーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（そくおん）（小さい「っ」）、拗音（ようおん）（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
前面左	＊テンキーを搭載していないモデルのみ アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
前面右	＊テンキーを搭載していないモデルのみ 数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards（トウシバ フラッシュ カーズ）」を使うと、キーボードなどによる簡単な操作によって、さまざまな機能を実行できます。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択すると、それぞれのカードに割り当てられている機能が実行されます。

■操作方法

1 FNキーを押す

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 **設定したい機能のカードをクリックする**

カードとアイコンが表示されます。

3 **表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインターを合わせる**

ポインターを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 **設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする**

選択した項目に設定されます。

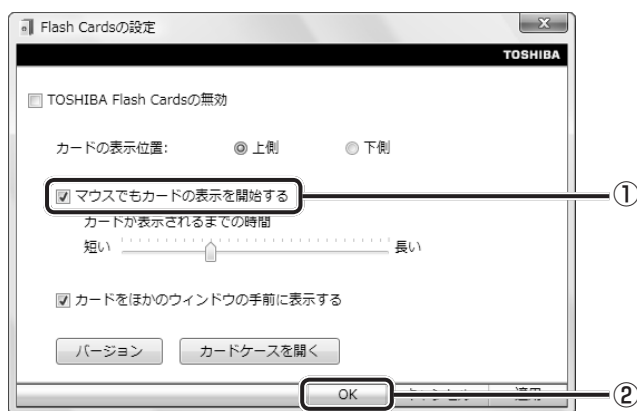
各カードの上部に、FNキーを使ったときの特殊機能キーの名称が表示されています。各カードの機能は、FNキーを使った特殊機能キーを押して実行できる機能と同じです。

参照 「本項 - FNキーを使った特殊機能キー」

■マウス操作でカードを表示させる

ポインターをデスクトップ上部に合わせることによって、「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cardsの設定］をクリックする**

2 **［マウスでもカードの表示を開始する］をチェックし①、［OK］ボタンをクリックする②**

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards ヘルプ］をクリックする**

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❏ FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN ＋ ESC ＜スピーカーのミュート＞	FN キーを押したまま、ESC キーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON／OFFが切り替わります。
FN ＋ SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切り替え＞	FN キーを押したまま、SPACE キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度が切り替わります。
FN ＋ F1 ＜インスタントセキュリティ機能＞	コンピューターをロックします。 解除するには、ユーザー名をクリックしてください。Windowsログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsログオンパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
FN ＋ F2 ＜電源プランの設定＞	FN キーを押したまま、F2 キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。FN キーを押したまま、F2 キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN ＋ F3 ＜スリープ機能の実行＞	FN キーを押したまま、F3 キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN ＋ F4 ＜休止状態の実行＞	FN キーを押したまま、F4 キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態になります。
FN ＋ F5 ＜表示装置の切り替え＞	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 4 外部ディスプレイの接続」
FN ＋ F6 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FN キーを押したまま、F6 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN ＋ F7 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FN キーを押したまま、F7 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN ＋ F8 ＜無線通信機能のON／OFF＞	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、FN キーを押したまま、F8 キーを押すと、切り替え画面が表示されます。 FN キーを押したまま、F8 キーを押し直し、目的の無線通信機能（無線LAN機能）のアイコンが大きい状態で指をはなすと、選択した無線通信機能のON／OFFが切り替わります。 **＊ 無線LAN機能搭載モデルのみ**

キー	内容
FN＋F9 <タッチパッド ON／OFF>	FNキーを押したまま、F9キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えます。 参照 詳細について 「本章 3-2 タッチパッドの使用環境を設定する」
FN＋F10 <オーバーレイ機能>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ FNキーを押したまま、F10キーを押すと、アロー状態になります。キー左下に灰色で印刷されているカーソル制御キー（↑、↓、←、→、HOME、PGUPなど）として使えます。アロー状態を解除するには、もう一度FN＋F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
FN＋F11 <オーバーレイ機能>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ FNキーを押したまま、F11キーを押すと、数字ロック状態になります。キー右下に灰色で印刷されているテンキー（1、2、3など）として使えます。数字ロック状態を解除するには、もう一度FN＋F11キーを押します。アプリケーションによっては異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。
FN＋F12 <スクロールロック状態>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう一度FN＋F12キーを押します。
FN＋↑ <PGUP（ページアップ）>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN＋↓ <PGDN（ページダウン）>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN＋← <HOME（ホーム）>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN＋→ <END（エンド）>	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN＋1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大/縮小表示できるアプリケーションです。

- **起動方法**
  ① [スタート] ボタン( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Smooth View] をクリックする
- **ヘルプの起動方法**
  ①「TOSHIBA Smooth View」を起動後、画面右上の [ヘルプ] ボタン( ) をクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインターを合わせ、クリックする
- **使用方法**
  ① *FN* キーを押したまま、*1* キーまたは *2* キーを押す
  画面やアイコンなどを縮小するときは *1* キー、拡大するときは *2* キーを押します。

❑ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	*CTRL*+*SHIFT*+*ESC*	[Windows タスクマネージャー] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	*PRTSC*	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT+*PRTSC*	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

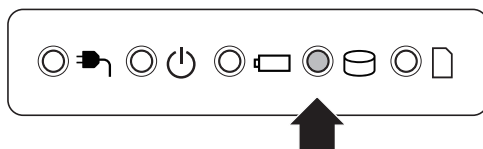
5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが搭載されています。
本体のハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PCカードタイプ（TYPE Ⅱ）、eSATA接続型やUSB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 1 - 3 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

本体のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk LEDが点灯します。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

SSDについて

＊ SSD搭載モデルのみ

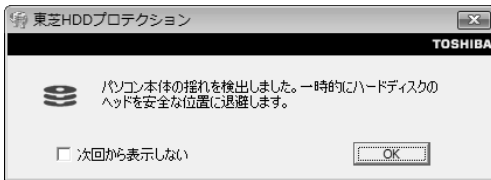
SSD搭載モデルは、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを搭載しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NAND フラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
以下の機能についてもご利用いただけます。

- **BIOSセットアップ**
  BIOSセットアップ画面には「HDD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。
- **HDDパスワード**
  ハードディスク同様、登録可能です。
- **ハードディスクからのリカバリー**
  ハードディスク同様、SSDからリカバリーできます。

本書および付属の説明書では､HDDとSSDをまとめて「ハードディスクドライブ」と呼びます。

1 東芝HDDプロテクションについて

＊ HDD搭載モデルのみ

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に搭載された加速度センサーにより落下・振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性が軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 3 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」を確認してください。

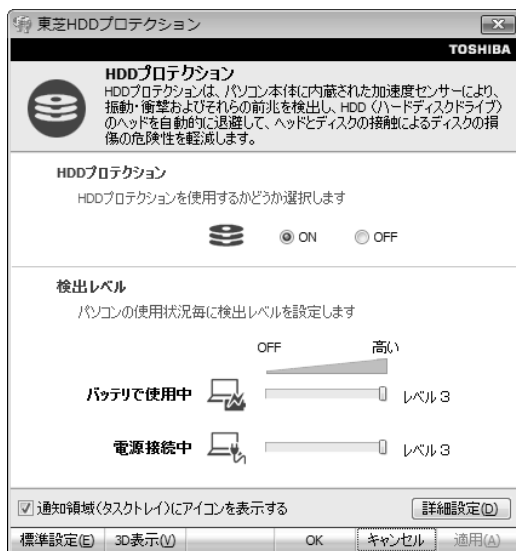
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。
- 音楽や動画の再生中に、パソコン本体の揺れを検出してHDDのヘッド退避が行われた場合、再生中の音楽や動画が一時的に途切れることがあります。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする**

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

メモ　3D表示

- ［東芝HDDプロテクション］画面で［3D表示］ボタンをクリックすると、［3D表示］画面が表示され、パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。振動を検出し、HDDのヘッドを退避させている間は、画面に表示されているディスクの回転が停止し、ヘッド退避が解除されると、回転が再開します。
［3D表示］画面を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ［3D表示］画面の3Dオブジェクトは、本体のハードディスクを仮想的に表現したものであり、ハードディスクのディスクの枚数や、ディスクの回転、ヘッドの動作、各部品のサイズや形状、向きなどは実際のものとは異なります。
- ［3D表示］画面を表示した状態でほかの作業を行ったときに、CPUやメモリの使用率が高くなる場合があるため、パソコンの動作が遅くなることがあります。

2 **各項目を設定する**

設定項目は、次のとおりです。
東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプター）接続時とバッテリー使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
たとえば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリーで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDD プロテクション	東芝HDD プロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリーで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。 「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDD プロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。 使用状況に応じてレベルを低く設定できます。＊1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDD プロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げて使用できます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。
さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 5 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

ACアダプターを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDD プロテクション動作時メッセージを表示する	東芝HDD プロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 ［東芝HDD プロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDD プロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDD プロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

6 CDやDVDを使う
－ドライブ－

＊ドライブ搭載モデルのみ

本製品には、DVDスーパーマルチドライブ、DVD-ROMドライブのいずれかが搭載されています。搭載されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

● DVDスーパーマルチドライブ

ドライブには次のマークが入っています。

＊マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

● DVD-ROMドライブ

ドライブには次のいずれかのマークが入っています。

＊マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。
使用する記録メディアによっては、読み出しができない場合があります。

1 DVDスーパーマルチドライブ搭載モデル

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-ROM	○	×
DVD-R＊4	○＊3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD+R＊5	○＊3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。
＊4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（DVD-R Dual Layer）を含みます。
＊5 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

メモ　書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に用意されているアプリケーションは次のとおりです。
  - ・TOSHIBA（トウシバ） Disc（ディスク） Creator（クリエイター）
    「TOSHIBA Disc Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。
    ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

お願い　CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 - CD／DVDに書き込む前に」、「付録 1 - 9 - 書き込みを行うにあたって」を確認してください。

2 DVD-ROMドライブ搭載モデル

DVD-ROMドライブは、CD／DVDの読み出しのみ可能です。
書き込みはできません。

2 DVDの映画や映像を見る

＊ ドライブ搭載モデルのみ

Windows上でDVDを再生するには、「TOSHIBA DVD PLAYER（トウシバ ディーブイディー プレーヤー）」を使います。

用語について

本節では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-Videoフォーマットまたは DVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

お願い　DVDの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 DVDの再生にあたって」を確認してください。

メモ

- Windows上でDVDを再生する場合、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。
「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。

3 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に搭載されているドライブにセットして使用します。

お願い　CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 4 CDやDVDについて」、「付録 2 - 1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

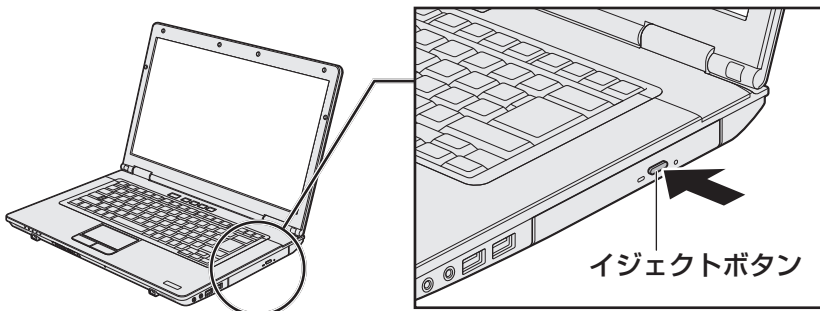
- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
  このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする
  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ③［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ④［共通の設定］画面で次のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする
  Windows7　：［シングル セッション ディスクを取り出すとき］と［マルチ セッション ディスクを取り出すとき］
  Windows Vista：［ディスクの取り出し時のUDFセッションを自動的に閉じる］

ドライブに関する表示

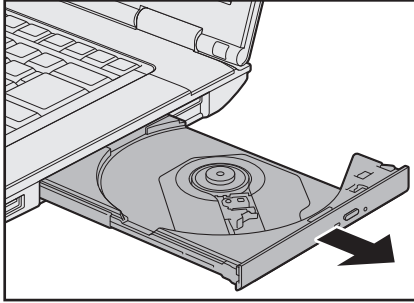
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLED、Disk LEDが点灯します。

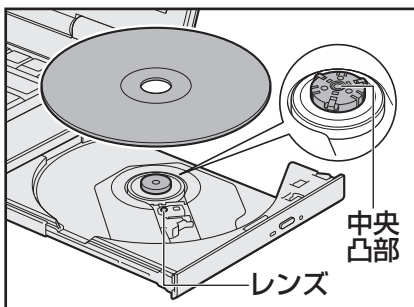
1 パソコン本体の電源を入れる

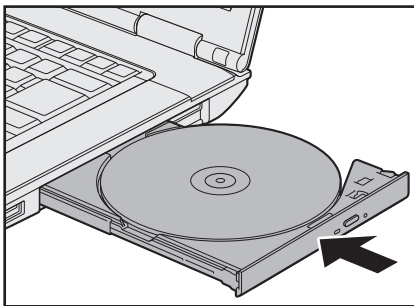
Windowsが起動します。

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから指をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

＊ 搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

4 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

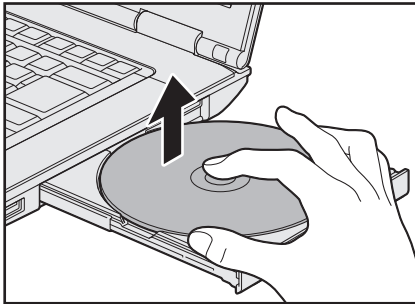
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

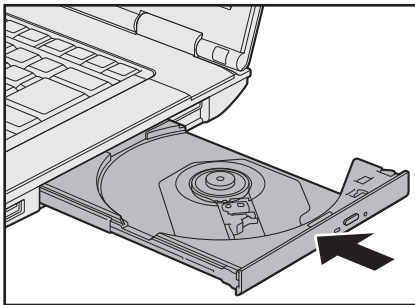
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

CD／DVDが出てこない場合

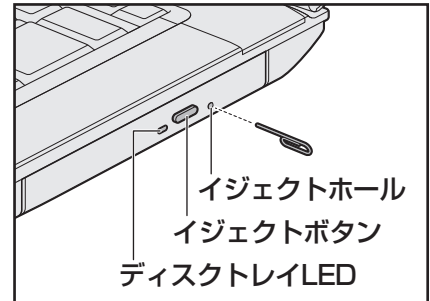
⚠注 意

- **クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する**
  先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD／DVDは出てきません。電源を入れてから、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

＊ 搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

5 DVD-RAMをフォーマットする

＊DVDスーパーマルチドライブ搭載モデルのみ

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後の記録メディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」「UDF1.50」「UDF1.02」「FAT32」です。

DVD-RAMのセクターの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。
物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。
なお、物理フォーマットを行ったあとには、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。
フォーマット方法については［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、「Windowsヘルプ サポート」を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。
「TOSHIBA Disc Creator」をインストールしないと本機能は使用できません。
あらかじめインストールしてください。

参照 「TOSHIBA Disc Creator」について
「本節 1 - 1 -メモ- 書き込みできるアプリケーション」

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD＆DVDアプリケーション］→［DVD-RAMユーティリティ］をクリックする

［東芝DVD-RAMユーティリティ］画面が表示されます。

3 ［開始］ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。
物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

7 画面を見やすく調整する
－ディスプレイ－

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

FN＋*F6*：*FN*キーを押したまま、*F6*キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで輝度の状態を確認できます。

FN＋*F7*：*FN*キーを押したまま、*F7*キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで輝度の状態を確認できます。

8 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 音量ボタンで調整する

メモ

- パソコンの起動時、または電源を切っているときは、音量ボタンを押しても音量調節はできません。

1 パソコン本体の音量ボタンを押す

音量ボタンの位置は、『取扱説明書』で確認してください。
音量ボタンの「+」を1回押すと音が大きくなります。
音量ボタンの「−」を1回押すと音が小さくなります。
音量を確認しながら、音量ボタンを何度か押して調整してください。

2 音量ミキサーから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

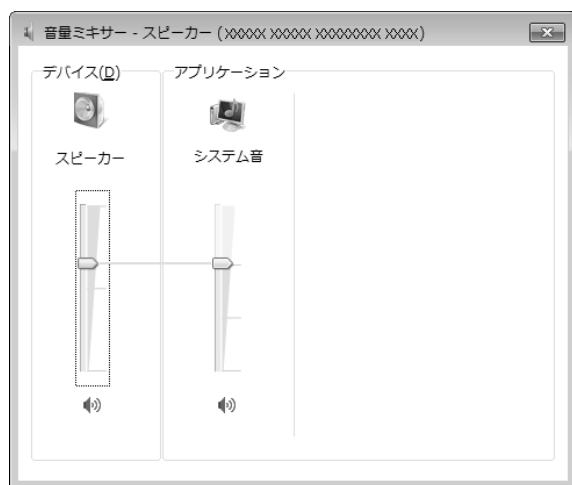
2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

❏ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

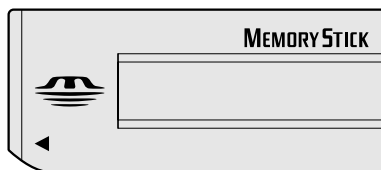
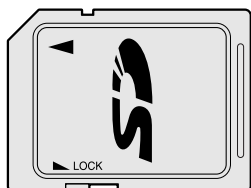
項目	説明
スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音 （Windows 7）	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。
Windowsのサウンド （Windows Vista）	

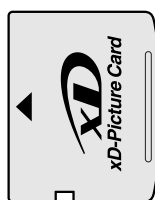
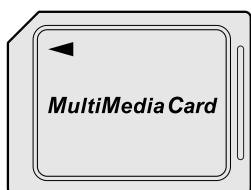
また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

9 いろいろなメディアカードを使う －ブリッジメディアスロット－

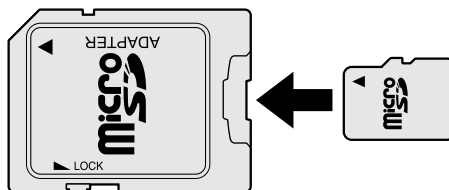
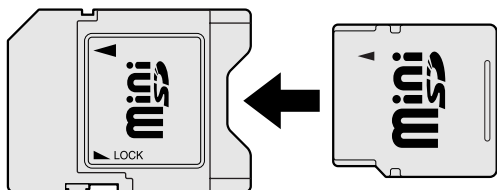
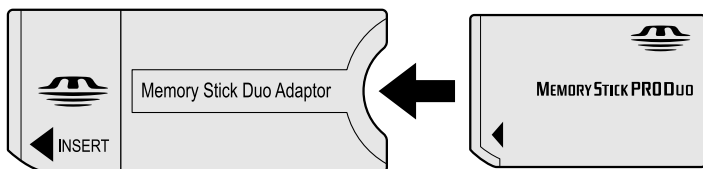
本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード*[1]
  （以降、SDHCメモリカード*[1]を含みます。）

- メモリースティック
- メモリースティックPRO

- マルチメディアカード

- xD-ピクチャーカード

次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード*[1]
  （以降、miniSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。

- microSDメモリカード*[1]
  （以降、microSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。

- メモリースティックデュオ／メモリースティックPRO デュオ
  メモリースティック デュオ アダプターを使用します。

＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

それぞれのメディアカードで使用できる容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

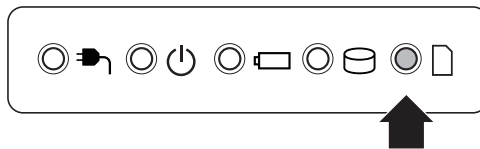
お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 3 メディアカードを使うにあたって」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセットと取り出し

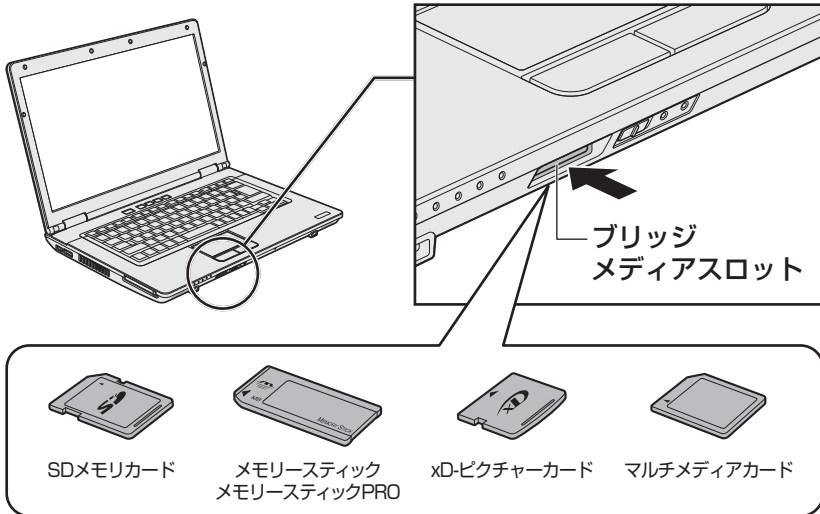
ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 3 - 1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  メモリースティックデュオ／メモリースティックPRO デュオは、メモリースティックデュオ アダプターが必要です。
  アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*[1]を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護*[1]されたファイルについては見ることができない場合があります。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード	：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD
メモリースティック	：リムーバブルディスク、MemoryStick、MS/MSPro
メモリースティックPRO	：リムーバブルディスク、MemoryStick PRO、MS/MSPro
xD-ピクチャーカード	：リムーバブルディスク、xD-Picture Card
マルチメディアカード	：リムーバブルディスク、MMC記憶域デバイス、MMC

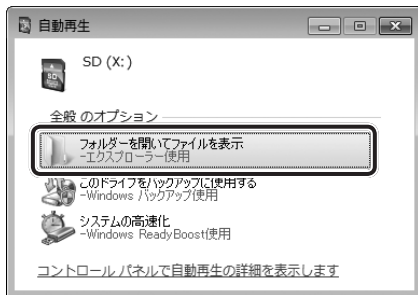
（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］（Windows 7）または［ハードウェアの安全な取り外し］（Windows Vista）アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

（表示例）

②表示されたメニューから取り出すメディアカードの項目をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3章

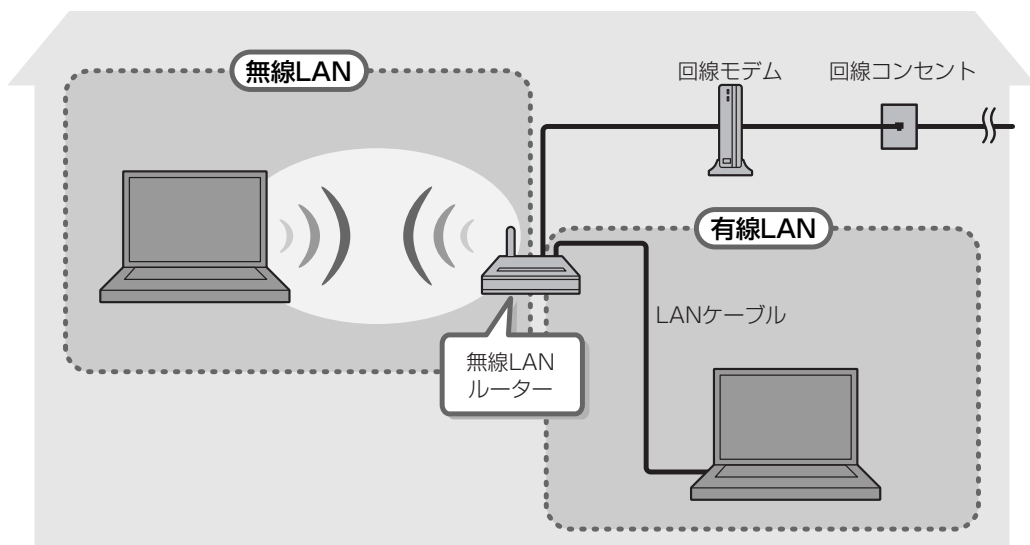
ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 有線LANで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、[スタート] ボタン（ ）→ [ヘルプとサポート] をクリックして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

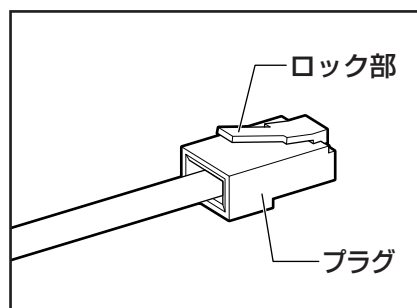
2 有線LANで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。
本製品のLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

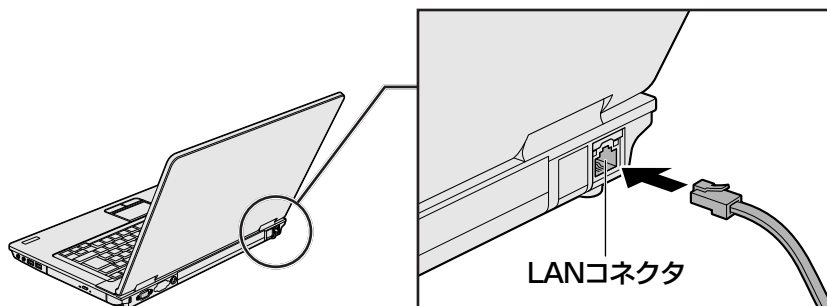
1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 有線LANについて」を確認してください。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

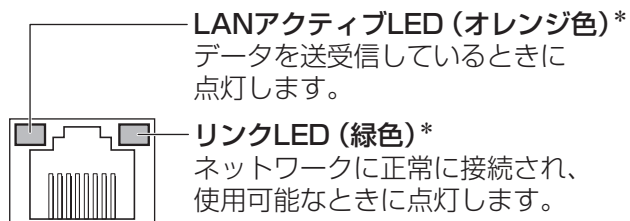
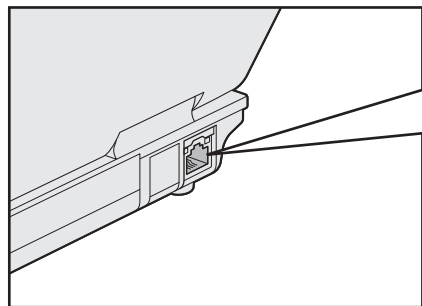
2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』
ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属の説明書』

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LAN機能搭載モデルのみ

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

参照 「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

Windows Vistaの場合は、表示されたメニューから［ワイヤレス ネットワーク接続］→［プロパティ］をクリックし、表示された画面の［接続の方法：］でアダプター名を確認してください。
アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。

- **「Atheros AR9280 Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros a/b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書』と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

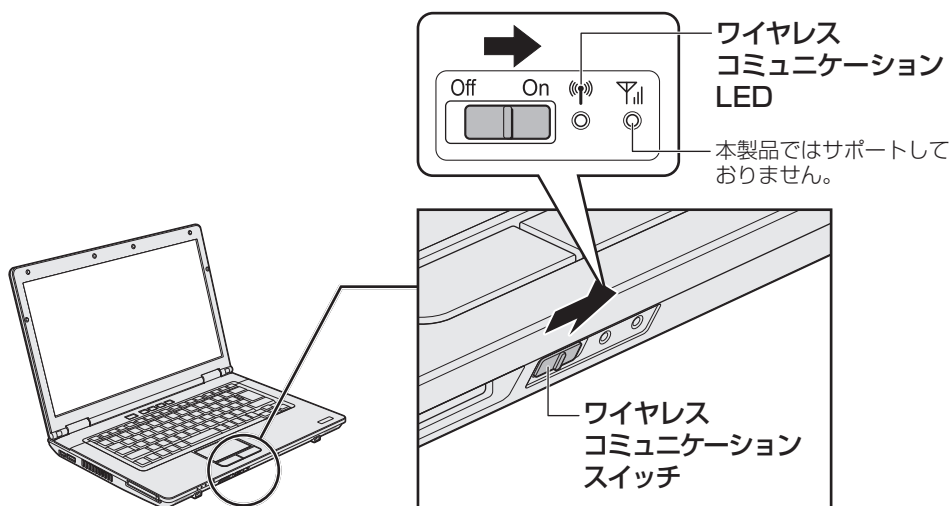
2 無線LANを使ってみよう

⚠警 告

- **心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  ・無線機能は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチでOFFにすることができます。ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無線機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い

- あらかじめ、「付録 1 - 6 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 **本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする**

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳しくは、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ConfigFree］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする

- **「ConfigFree」の起動方法**
  「ConfigFree」は、Windows を起動すると自動的に起動し、通知領域に「ConfigFree」アイコン（ ）が表示されています。通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ConfigFree］→［ConfigFree トレイ］をクリックする

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

■Windows 7の場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ インターネットへの接続］をクリック→［ワイヤレス］をクリックする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをクリックする

5 ［ネットワークに接続］画面で、必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、『無線LANアクセスポイントに付属の説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

■Windows Vistaの場合

1 [スタート]ボタン( )→[コントロールパネル]をクリックする

2 [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリック→画面左の[ネットワーク接続の管理]をクリックする

現在のネットワークへの接続状態が表示されます。

3 [ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックし、表示されたメニューから[状態]をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続の状態]画面が表示されます。

4 [ワイヤレスのプロパティ]ボタンをクリックする

5 [セキュリティ]タブを選択し、セキュリティと暗号化の種類を選択してセキュリティを設定する

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、『無線LANアクセスポイントに付属の説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 周辺機器について」を確認してください。

次の周辺機器が使用できます。

- USB対応機器

  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」

- eSATA対応機器

  参照 eSATA対応機器「本章 3 eSATA対応機器を使う」

- 外部ディスプレイ

  参照 外部ディスプレイの接続「本章 4 外部ディスプレイの接続」

- マイクロホン／ヘッドホン

  参照 マイクロホン／ヘッドホンの接続「本章 5 マイクロホンやヘッドホンを使う」

- PCカード

  参照 PCカード「本章 6 PCカードを使う」

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

お願い USB対応機器の操作にあたって

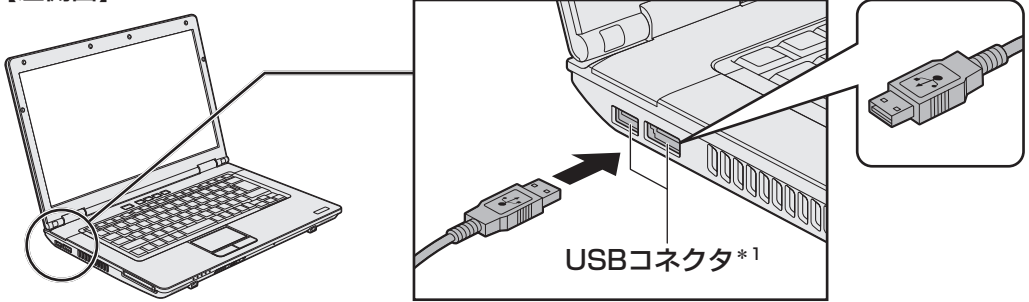
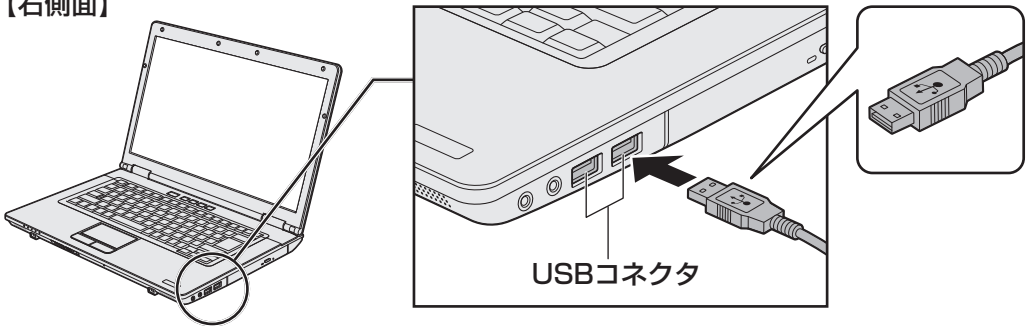
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USBの常時給電について」を確認してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］（Windows 7）または［ハードウェアの安全な取り外し］（Windows Vista）アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。

（表示例）

②表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 eSATA対応機器を使う

eSATA（イーエスエーティーエー）対応機器を接続して使用できます。
eSATA対応機器には次のようなものがあります。

- eSATA対応ハードディスクドライブ　など

eSATA対応機器の詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

本製品のeSATAコネクタは、USBコネクタを兼ねています。

参照 「本章 2 USB対応機器を使う」

お願い eSATA対応機器の操作にあたって

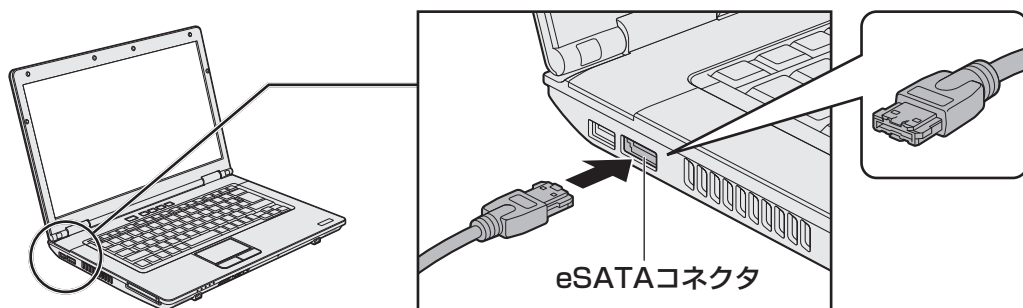
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - eSATA対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 eSATAケーブルのプラグをeSATA対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。eSATA対応機器の詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 eSATAケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のeSATAコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取りはずし

1 eSATA対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］（Windows 7）または［ハードウェアの安全な取り外し］（Windows Vista）アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないeSATA対応機器は、手順 2 に進んでください。

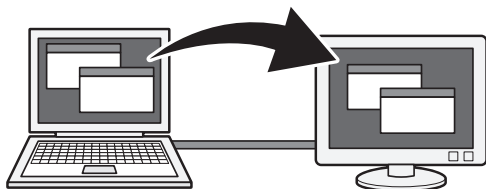
（表示例）

②表示されたメニューから取りはずすeSATA対応機器の項目をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とeSATA対応機器に差し込んであるeSATAケーブルを抜く

4 外部ディスプレイの接続

本製品のRGB（アールジービー）コネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

メモ

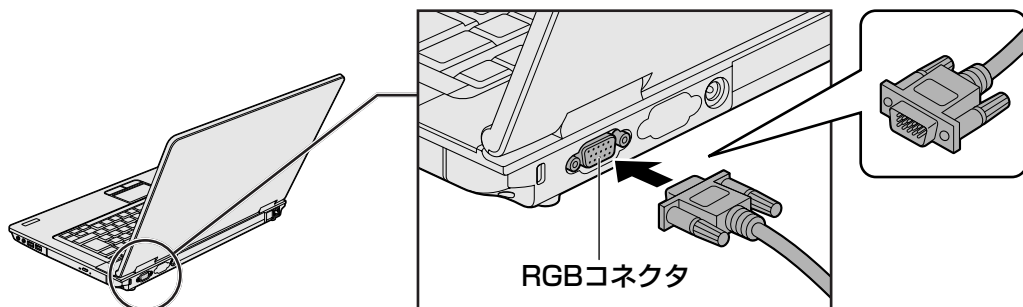
- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- RGB端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、本項目の説明と『テレビに付属の説明書』を参照してください。

1 パソコンに接続する

お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - 外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

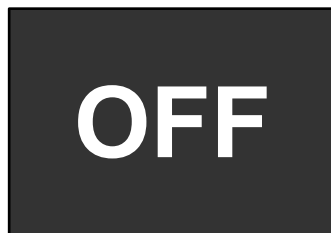
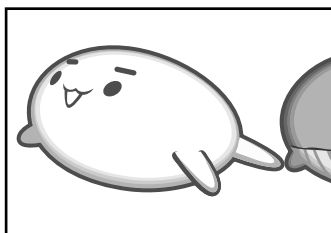
上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

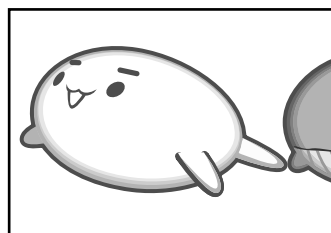
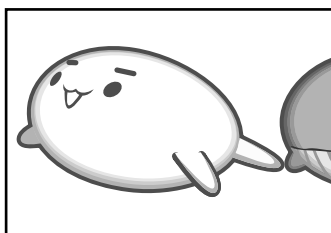
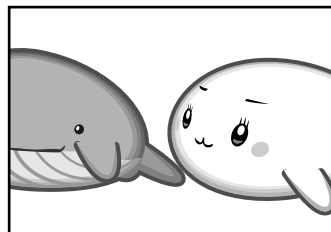
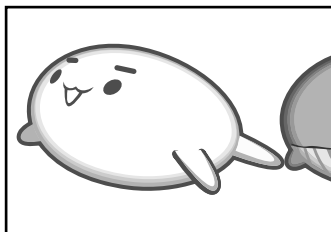
4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **拡張表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊拡張表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。

外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、外部ディスプレイには表示されません。

メモ

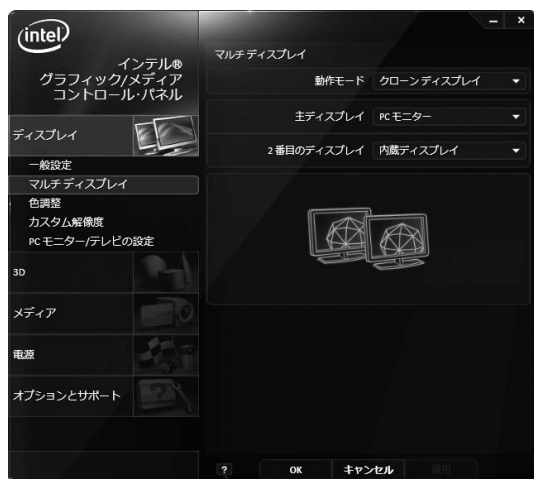
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」＊1で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。
  ＊1 ドライブ搭載モデルのみ
- 「電源オプション」で省電力機能を設定して、外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
  表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

1 方法1 － デスクトップ画面で設定する

1 **デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする**

メニューが表示されます。

2 **［グラフィック プロパティ］をクリックする**

3 **［ディスプレイ］→［マルチディスプレイ］で表示装置を設定する**

（表示例）

■本体液晶ディスプレイ、または外部ディスプレイだけに表示

① ［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

② ［主ディスプレイ］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［内蔵ディスプレイ］

・外部ディスプレイに表示する場合：［PCモニター］

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

① ［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［クローン ディスプレイ］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

② ［主ディスプレイ］と［2番目のディスプレイ］を設定する

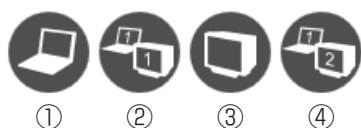
［内蔵ディスプレイ］は「本体液晶ディスプレイ」、［PCモニター］は「外部ディスプレイ」を示します。

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

2 方法2 － FN ＋ F5 キーを使う

表示装置を選択する

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切り替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切り替え可能なパターンを示しています。
FN キーを押したまま、 F5 キーを押すたびに大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、 FN キーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

①LCD............................. 本体液晶ディスプレイだけに表示
②LCD＋CRT .... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにクローン表示
③CRT............................. 外部ディスプレイだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
④LCD＋CRT Extended Desktop
.... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに拡張表示
本体液晶ディスプレイが主ディスプレイになります。

❏ 拡張表示で主ディスプレイを切り替える方法

現在の表示装置が拡張表示に設定されている場合、主ディスプレイと2番目のディスプレイを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。

＊画面はCRT（外部ディスプレイ）を接続している場合のカードです。

❏ 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

3 パソコンから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

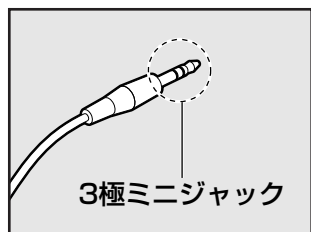
5 マイクロホンやヘッドホンを使う

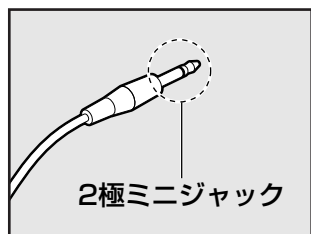
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

マイクロホンを使うときは、マイク入力端子に接続します。

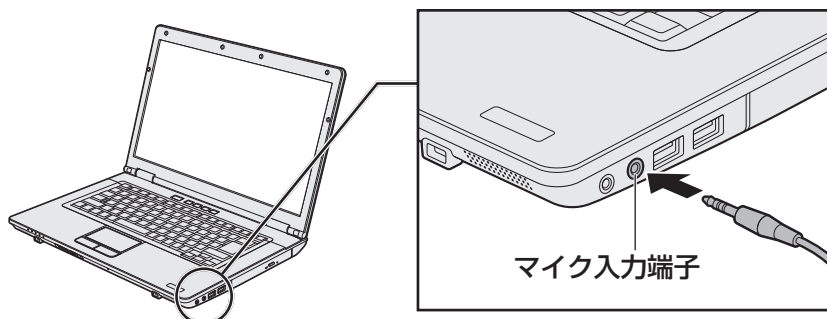
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

3極ミニジャック

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

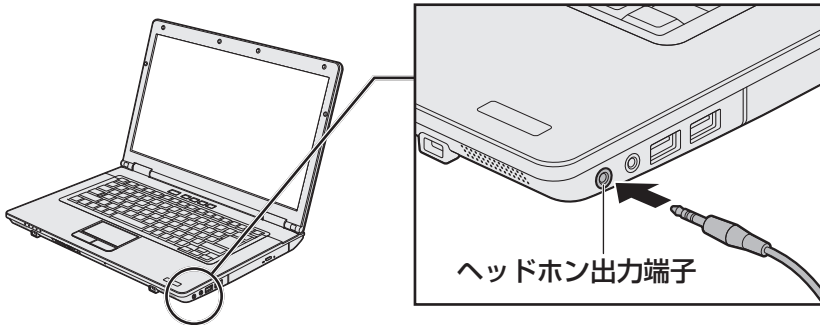
お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

ヘッドホンの音量は音量ボタン、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 8 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

6 PCカードを使う

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード
- フラッシュメモリカード用アダプターカード
- 外付けハードディスクドライブ、CD／DVDドライブ用アダプターカード　など

1 PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードを含む）を使用できます。
ほとんどのPCカードは電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているPCカードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しくは、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

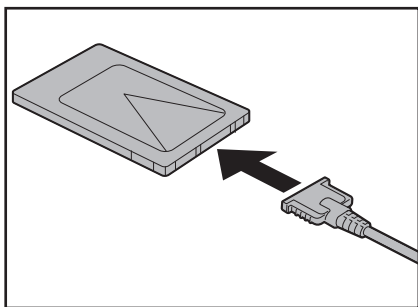
お願い　PCカードの操作にあたって

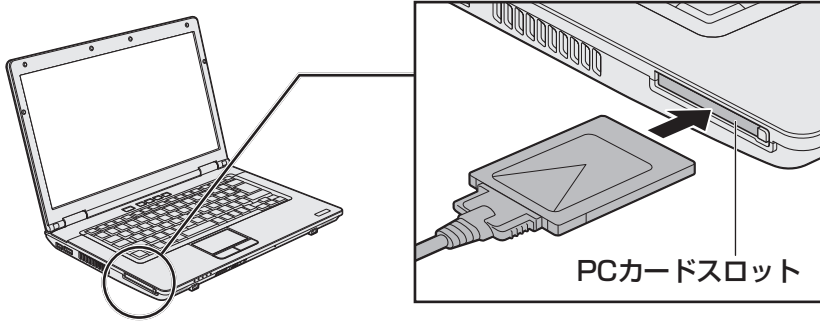
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - PCカードの操作にあたって」を確認してください。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要な場合は、PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。
カードを接続したあとで、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］（Windows 7）または［ハードウェアの安全な取り外し］（Windows Vista）アイコン（ ）をクリックする

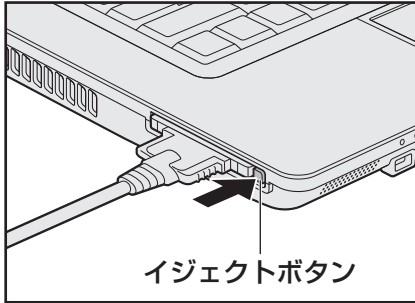
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないPCカードは、手順 2 に進んでください。

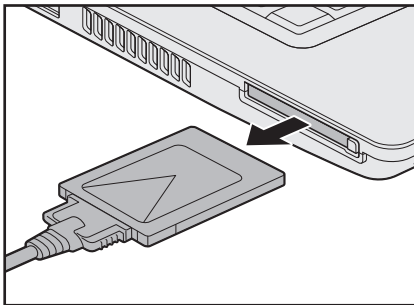
（表示例）

②表示されたメニューから取りはずすPCカードの項目をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 イジェクトボタンを2回押す

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう一度カチッと音がするまで押してください。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。
カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

ケーブルを接続している場合は、カードを抜くときにケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

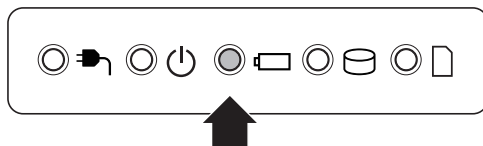
1 バッテリーについて

パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

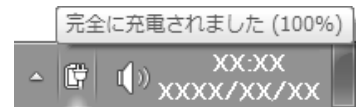
1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、Battery LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

緑色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・バッテリーが装着されていない ・ACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）の上にポインターを合わせると、バッテリー充電量が表示されます。
［バッテリー］アイコン（ ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。

完全に充電されました (100%)
XX:XX
XXXX/XX/XX

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ低下の操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが切れると、時間の再設定をうながすメッセージが表示されます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは電源ON（Power ⏻ LEDが緑色に点灯）の状態にしておくと、約24時間で充電が完了します。
実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い　バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッドスリープについて『セットアップガイド』

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2 - 2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 「2章 2 - 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーは、消耗品です。バッテリーを交換する目安を調べることができます。

参照 『取扱説明書 2章 3 パソコンの動作状況を監視し、記録する』

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態のバッテリーパックを放置しておくとバッテリーが機能低下し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この機能低下は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  ＊TOSHIBA ecoユーティリティ搭載モデルのみ
  東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - TOSHIBA ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

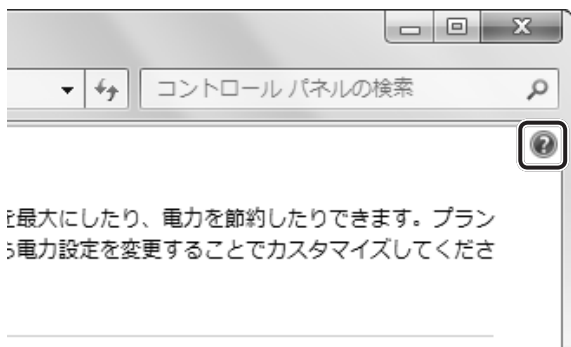
1 起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

2 [システムとセキュリティ]（Windows 7）または [システムとメンテナンス] (Windows Vista) → [電源オプション] をクリックする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

TOSHIBA ecoユーティリティ
＊ TOSHIBA ecoユーティリティ搭載モデルのみ

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。
詳しくは、「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ecoユーティリティ］をクリックする
  初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**
  ①［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］ボタンを押す
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

「東芝ピークシフトコントロール」

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたパソコンのバッテリーで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。
この機能を実現するには、「東芝ピークシフトコントロール」のインストールが必要です。
使用方法については、ヘルプを参照してください。

- **インストール方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
  ② 画面のメッセージに従ってインストールする
  ［ユーティリティ］タブに［TOSHIBA Peakshift Control］の項目が用意されています。

- **起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ピークシフトコントロール］をクリックする

- **ヘルプの起動方法**
  ①「東芝ピークシフトコントロール」を起動後、画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインターを置き、クリックする

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1 **[スタート]ボタン（ ）→[すべてのプログラム]→[TOSHIBA]→[ユーティリティ]→[HWセットアップ]をクリックする**

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 **各タブで機能を設定し、[OK]ボタンをクリックする**

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 **[東芝HWセットアップ]画面上で、知りたい項目にポインターを合わせる**

項目に対するヘルプが表示されます。

2 BIOSセットアップ

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。
印刷した本項目のページと『取扱説明書』を参照して実行してください。

BIOSセットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。起動と終了方法や基本操作は『取扱説明書』を参照してください。
ここでは、BIOSセットアップの設定項目について説明します。

1 BIOSセットアップの画面

BIOSセットアップには次の２頁の画面があります。

＊1 ドライブ搭載モデルのみ

（注）画面は一部をのぞいて標準設定値の表示例です。

2 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

■Total

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、↑ ↓ キーで行います。

■Date

日付を設定します。

■Time

時刻を設定します。

3 PASSWORD

■User Password

- ・Not Registered（標準値）...ユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・Registered..........................ユーザーパスワードが登録されているときに表示される

【ユーザーパスワードの登録／削除／変更】

ユーザーパスワードの設定は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。
BIOSセットアップでユーザーパスワードを設定する場合は、「本章 3 - 1 - 2 BIOSセットアップでの設定」を確認してください。

参照 「東芝パスワードユーティリティ」について
「本章 3 - 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

【ユーザーパスワードを忘れてしまったとき】

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。
ユーザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■Supervisor Password

・Not Registered（標準値）...スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................スーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示される

【スーパーバイザーパスワードの登録】

スーパーバイザーパスワードを登録すると、セットアップへのアクセスを制限できます。
スーパーバイザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。スーパーバイザーパスワードをBIOSセットアップで登録すると、操作が一部制限されます。

参照 「本章 3 - 2 スーパーバイザーパスワード」

【スーパーバイザーパスワードの削除／変更】

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを設定してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本章 3 - 2 スーパーバイザーパスワード」

【スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき】

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDD PASSWORD

■HDD

パスワードを設定するハードディスクです。

・Built-in HDD ....本体のハードディスクに設定する

■HDD Password Mode

登録するHDDパスワードを設定します。HDDパスワード（HDDユーザーパスワード、HDDマスターパスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

・User Only（標準値）.............HDDユーザーパスワードのみ設定する
・Master+User.........................HDDマスターパスワードとHDDユーザーパスワードを設定する

■User Password

HDDユーザーパスワードを設定します。

■Master Password

HDDマスターパスワードを設定します。
「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

HDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。
- ・Not Registered（標準値）...HDDマスターパスワードまたはHDDユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・Registered............................HDDマスターパスワードまたはHDDユーザーパスワードが登録されているときに表示される

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 3 - 4 HDDパスワード」

5 BOOT PRIORITY

■Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。
- ・HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
- ・FDD → HDD → CD-ROM → LAN
- ・HDD → CD-ROM → LAN → FDD
- ・FDD → CD-ROM → LAN → HDD
- ・CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- ・CD-ROM → LAN → FDD → HDD

（FDD → HDD → CD-ROM → LAN 〜 CD-ROM → LAN → FDD → HDD：指定のドライブ順に起動する）

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続している場合、フロッピーディスクドライブから起動します。

■HDD Priority

「USB Memory BIOS Support Type」でHDDを選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。
- ・Built-in HDD → USB → eSATA（標準値）
- ・USB → Built-in HDD → eSATA
- ・Built-in HDD → eSATA → USB
- ・USB → eSATA → Built-in HDD
- ・eSATA → Built-in HDD → USB
- ・eSATA → USB → Built-in HDD

6 OTHERS

■Execute-Disable Bit Capability

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を設定します。
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピューターウイルスや不正アクセスによるバッファー・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

・Available（標準値）................有効にする
・Not Available ....無効にする

■Auto Power On

自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

・Disabled ....Auto Power On機能が設定されていない
・Enabled（標準値）..................Auto Power On機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入ったあとは設定が解除されます。
Windowsを使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になることがあります。
Windowsのタスクスケジューラーを使用してください。

Auto Power On機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled ....時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled ....月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
[14]「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合、有効になります。
Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプターを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。

・Enabled（標準値）..................Wake up on LAN機能を使用する
・Disabled ....Wake up on LAN機能を使用しない

Wake-up on LAN機能を有効にするためには、「デバイスマネージャー」の［ネットワークアダプター］でネットワークアダプター名をダブルクリックし、表示されたプロパティ画面の［電源の管理］タブで［このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］および［Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］（Windows 7）または［管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする］（Windows Vista）の項目にチェックをつける必要があります。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、Auto Power On機能を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定「本章 3 パスワードセキュリティ」

● on Battery

「Wake-up on LAN」が「Enabled」の場合、有効になります。

- Enabled..................................バッテリー駆動の際に、Wake-up on LAN機能を有効にする
- Disabled（標準値）...............バッテリー駆動の際に、Wake-up on LAN機能を無効にする

● Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up機能」を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをハードディスクに保存します。

なお、Windows 7またはWindows Vistaをお使いの場合のみ有効です。

- Enabled（標準値）.................Critical Battery Wake-up機能を有効にする
- Disabled ....Critical Battery Wake-up機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、Windows上でも設定が必要です。
次の操作を行って、設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［システムとセキュリティ］（Windows 7）または［システムとメンテナンス］（Windows Vista）の［電源オプション］をクリックする

② 利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする

③ ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

④ ［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで、［バッテリ］をダブルクリックする

⑤ ［バッテリ切れの操作］をダブルクリックし、表示された項目で「バッテリ駆動」を［休止状態］に設定する

⑥ ［OK］ボタンをクリックする

■ Beep Volume

警告音（ビープ音）の音量を設定します。
Off、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

■USB Sleep and Charge

USBの常時給電の設定をします。
初期設定では「Disabled」に設定されています。「Enabled」に設定を変更すると、本機能が使用できます。
「Enabled」には複数のモード設定があります。通常はMode1に設定してください。
Mode1で本機能を使用できない場合は、他のモードに設定を変更してください。
ただし、外部機器によってはいずれかのモードに設定しても、本機能を使用できない場合があります。
この場合、「Disabled」に設定を変更し、本機能の使用を中止してください。

- Enabled（Mode1）..............有効にする
- Enabled（Mode2）..............有効にする
- Disabled（標準値）...............無効にする

7 CONFIGURATION

■Device Config.

ブート時にBIOSが初期化する装置を設定します。

- Setup by OS（標準値）........OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
  それ以外の装置はOSが初期化します。
- All Devices............................すべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。

8 BATTERY

■Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）	●Low Power	●User Setting（設定例）
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Super-Bright＊1	LCD Brightness = Bright＊1	LCD Brightness = Semi-Bright＊1
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

＊1 ACアダプターを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

- **Processing Speed**

  処理速度を設定します。

  使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

  ・High..処理速度を高速に設定する
  ・Low..処理速度を低速に設定する

- **CPU Sleep Mode**

  CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

  一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

  ・Enabled..................................電力消費を低減する
  ・Disabled.................................電力消費を低減しない

- **LCD Brightness（LCD輝度）**

  画面の明るさを設定します。

  ・Semi-Bright............................低輝度に設定する
  ・Super-Bright...........................最高輝度に設定する
  ・Bright......................................高輝度に設定する

- **Cooling Method（CPU熱制御方式）**

  CPUの熱を冷ます方式を設定します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

  ・Cooling Optimized..............パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却する
  ・Maximum Performance.....パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却する
  「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げます。
  ・Performance.........................パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却する
  ・Battery Optimized...............パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却する
  ［Performance］より消費電力は少なくなります。

■PCI Express Link ASPM

PCI Expressの省電力機能を設定します。

・Auto...バッテリー動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる
・Disabled.................................省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させる
・Enabled（標準値）..................PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる

9 DRIVES I/O

■Built-in HDD
ハードディスクドライブの設定を表示します。

■ODD
＊ドライブ搭載モデルのみ

CD／DVDドライブの設定を表示します。変更はできません。

■eSATA
eSATAコネクタの設定を表示します。変更はできません。

■SATA Controller Mode
SATAコントローラーモードを設定します。

・AHCI（標準値）......................Windows 7またはWindows Vista用のモード（AHCI）
・IDE...レガシーOS用でAHCI対応のドライバーを使わない場合に使用するモード
ただし、すべてのレガシーOSでの動作を保証するものではありません。

10 PCI BUS

■PCI BUS
PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 DISPLAY

■Power On Display
起動時のWindows ロゴを表示する表示装置を設定します。

・Auto-Selected（標準値）.....システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
・System LCD Only................本体液晶ディスプレイだけに表示する

12 PERIPHERAL

■Internal Pointing Device
タッチパッドを設定します。

・Enabled（標準値）.................使用する
・Disabled ....使用しない

13 LEGACY EMULATION

■USB KB/Mouse Legacy Emulation

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを設定します。

・Enabled（標準値）……………レガシーサポートを行う
ドライバーなしでUSBキーボード／USBマウスが使用できます。
・Disabled ……………………レガシーサポートを行わない

■USB-FDD Legacy Emulation

・Enabled（標準値）……………レガシーサポートを行う
ドライバーなしでUSBフロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
・Disabled ……………………レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、[5]「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体のハードディスクから起動します。

■USB Memory BIOS Support Type

コンピューターの起動に使用するUSBフラッシュメモリを設定します。

・HDD（標準値）…………………USBフラッシュメモリをHDDとして扱う
起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのHDDの順位になります。ほかのHDDとの優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
・FDD ……………………………USBフラッシュメモリをFDDとして扱う
起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのFDDの順位になります。

14 PCI LAN

■Built-in LAN

LANコネクタの機能を設定します。

・Enabled（標準値）……………有効にする
・Disabled ……………………無効にする

15 SECURITY CONTROLLER

■TPM

TPM（Trusted Platform Module）を設定します。

- ・Disabled（標準値）...............TPMを無効にする
- ・Enabled.................................TPMを有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。

①カーソルバーを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

画面下部に「Save changes to Security Controller now? (Y/N)」と表示されます。

② Y キーを押す

設定が変更されます。

■Hide TPM

「TPM」で「Disabled」に設定している場合のみ、表示されます。
TPMの表示をシステム上で確認できないようにするときに使用します。

- ・Yes...TPMをシステム上で確認できないようにする
- ・No（標準値）..........................TPMをシステム上で確認できるようにする

「TPM」を「Enabled」に設定するには、先に「Hide TPM」を「No」に設定してください。
また、「Yes」に設定すると、TPMをシステム上で確認することはできません。

■Clear TPM Owner

「TPM」で「Enabled」に設定し、再起動してから、設定できます。
所有者登録とユーザー登録を削除します。
本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

①カーソルバーを［Clear TPM Owner］に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

画面下部に「Press a key in the turn of [Y], [E], [S] and [Enter].」と表示されます。

②「YES」と入力し（Y E S キーを押す）、ENTER キーを押す

「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更され、「Clear TPM Owner」は表示されなくなります。

お願い　操作にあたって

- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「SECURITY CONTROLLER」を操作できないように設定することをおすすめします。

  参照 管理者以外のユーザーの制限について『Trusted Platform Module 取扱説明書』

- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の３種類があります。

- Windowsログオンパスワード
  - ・Windowsにログオンするとき
  - ・インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能「2章 4 - 2 - FN キーを使った特殊機能キー」

- ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）
  - ・電源を入れたとき
  - ・休止状態から復帰するとき
  - ・東芝パスワードユーティリティを起動して設定するとき

  ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザーパスワードを登録してください。

- HDDパスワード
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードやHDDパスワードの設定方法について説明します。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号　など ・記号の一部（半角） 【例】¦（バーチカルライン） _（アンダーバー） ¥（エン）など ・ほかのキー（SHIFT キーや CAPSLOCK英数 キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。
また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

2 ［登録］ボタンをクリックする

［ユーザーパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［入力］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されますので、画面で確認できません。
間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 ［確認入力］にもう一度パスワードを入力する

5 ［登録］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 3 から操作をやり直してください。
パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。このファイルをパスワードファイルと呼びます。
パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

① メディアをセットする
② ［保存する場所］で保存先を選択する
③ ［ファイル名］にファイル名を入力する
④ ［保存］ボタンをクリックする

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

8 必要に応じて、［パスワードの注釈：］を入力する

［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 パスワードに使用できる文字 「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

9 [OK] ボタンをクリックする

ユーザーパスワードが登録されます。

お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

削除

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 [削除] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードの削除] 画面が表示されます。

3 [削除] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

4 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードの削除認証] 画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

変更

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする**

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 **［変更］ボタンをクリックする**

［ユーザーパスワードの変更］画面が表示されます。

3 **［入力］に新しいパスワードを入力する**

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されますので、画面で確認できません。
間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 **［確認入力］にもう一度パスワードを入力する**

5 **［変更］ボタンをクリックする**

確認画面が表示されます。

6 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

［ユーザーパスワードの変更認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されておりませんので、本手順 3 、4 で入力したものではなく、その前に登録しておいたパスワードを使用してください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。
変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

7 **パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする**

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1 - 登録」の手順 7 を確認してください。

2 BIOSセットアップでの設定

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOSセットアップでの設定は、「PASSWORD」の「User Password」で行います。

登録

1 BIOSセットアップを起動する

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2 - 1 - 1 起動』

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

4 ENTERキーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう一度入力してください。

6 ENTERキーを押す

パスワードが登録され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2 - 1 - 2 終了』を確認してください。

削除

1 **BIOSセットアップを起動する**

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2-1-1 起動』

2 **カーソルバーを「PASSWORD」の「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 **登録してあるパスワードを入力する**

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 **ENTERキーを押す**

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 3 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

5 **ENTERキーを押す**

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 **ENTERキーを押す**

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「User Password」は「Not Registered」に変わって表示されます。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2-1-2 終了』を確認してください。

変更

1 BIOSセットアップを起動する

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2-1-1 起動』

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順 5 で入力したパスワードをもう一度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。

手順 5 と手順 6 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2-1-2 終了』を確認してください。

2 スーパーバイザーパスワード

スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
BIOSセットアップでも登録することができます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーでパソコンを使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥PasswordUtility¥TOSPU.exe」と入力する

3 ［OK］ボタンをクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードを登録している場合はパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

4 ［スーパーバイザーパスワード］タブをクリックする

操作方法

■ 登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。
ユーザーパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは「東芝HWセットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 ［スーパーバイザーパスワード］タブで［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定］画面が表示されます。

3 操作を許可する項目をチェックする

4 ［設定］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定認証］画面が表示されます。
スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

メモ

- F12 キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザーパスワード］タブで［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックし、［ユーザーポリシーの設定］画面の［HWセットアップ／BIOSセットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。
  チェックをはずしていると、F12 キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

参照 F12 キーで起動ドライブを変更する方法「2章 1 - 2 起動するドライブを変更する場合」

2 BIOSセットアップでの設定

＊ **この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。**

BIOSセットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■登録

BIOSセットアップの「PASSWORD」の「Supervisor Password」で登録できます。
登録方法は、BIOSセットアップでのユーザーパスワードの登録方法と同様です。
ユーザーパスワードの登録を確認してください。

参照 「本節 1 - 2 - 登録」

■削除、変更

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してからBIOSセットアップを終了してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本節 2 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

また、BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、次の操作も制限され、設定ができなくなります。

・ BIOSセットアップ画面での設定変更
　＊「MEMORY」「SYSTEM DATE/TIME」「PASSWORD」「HDD PASSWORD」の項目以外は非表示になります。
・ 東芝HWセットアップでの設定変更
・ F12キーを使って起動ドライブを選択する
　＊ Windowsが起動しなくなったり、リカバリーツールを消してしまった場合、リカバリーメディアからリカバリーができなくなります。

その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除をしてから、操作を行ってください。

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

■パスワードを入力する

1 設定したとおりにパスワードを入力し、ENTER キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

■パスワードを入力する

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 ［確認］ボタンをクリックする

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- **パスワードファイルを確認する**
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。HDDマスターパスワードを使用してHDDユーザーパスワードを変更することもできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。
HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

1 BIOSセットアップを起動する

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2 - 1 - 1 起動』

2 カーソルバーを「HDD PASSWORD」の「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに＊が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 ENTER キーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 パスワードを入力する

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう一度入力してください。

6 ENTER キーを押す

パスワードが登録され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2 - 1 - 2 終了』を確認してください。

4 HDDパスワードの削除

1 BIOSセットアップを起動する

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2 - 1 - 1 起動』

2 カーソルバーを「HDD PASSWORD」の「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTERキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 3 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

5 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「User Password」は「Not Registered」に変わって表示されます。

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2 - 1 - 2 終了』を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

1 BIOSセットアップを起動する

参照 BIOSセットアップの起動『取扱説明書 2章 2-1-1 起動』

2 カーソルバーを「HDD PASSWORD」の「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

HDDユーザーパスワードを入力してください。またはHDDユーザーパスワードの代わりに、HDDマスターパスワードを入力することもできます。この場合、HDDマスターパスワードを使ってHDDユーザーパスワードを変更することができます。
入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

4 ENTER キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 3 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順 5 で入力したパスワードをもう一度入力し、ENTER キーを押す

パスワードが変更され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。
手順 5 と手順 6 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書 2章 2-1-2 終了』を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTER キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

4 TPMを使う

本製品には、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラーチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
詳しくは、『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）とヘルプを参照してください。

TPMの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 11 TPMについて」を確認してください。

2 TPMを有効にする方法

TPMを使用するには、まずBIOSセットアップでTPMを有効に設定する必要があります。
TPMを有効にする方法は、「本章 2 BIOSセットアップ」を参照してください。

メモ

- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザーが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザーに操作制限を加えることをおすすめします。

  参照 管理者以外のユーザーの制限について
  『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

3 TPMのインストール方法

TPMを有効にしたあと、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

2 [セットアップ画面へ] をクリックする

3 [アプリケーション] タブをクリックする

4 画面左側の [Infineon TPM Software Professional Package] をクリックし、[「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ] をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。
TPMを使用するための設定や使用方法は、PDFマニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

[アプリケーション] タブの [Infineon TPM Software Professional Package] に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [Trusted Platform Module 取扱説明書] をクリックする

6 ヘルプの起動方法

1 通知領域の［Security Platform］アイコン（ ）を右クリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

7章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1　トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1　トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成とトラブル対処法を紹介します。

■パソコンを構成する３つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）やExcel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバーとは**

システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）ともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバー、マウスドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

● **ハードウェアとは**

バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、キーボード、ハードディスク、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「dynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 dynabook.comの詳細について『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFT キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。
外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN ＋ F5 キーを３秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 4 - 2 - 2 方法2－ FN ＋ F5 キーを使う」

Q 外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A 外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 4 - 2 表示を切り替える」

Q 外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A 外部ディスプレイを接続してください。

外部ディスプレイを主ディスプレイに指定してデュアルビュー（拡張）表示の設定をした場合に、スリープや休止状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。
外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN + F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）を明るくしてください*1。

FN + F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイは暗くなります。

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳しくは、［電源オプション］のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。*1

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

②［ システムとセキュリティ］（Windows 7）または［ システムとメンテナンス］（Windows Vista）→［ 電源オプション］をクリックする

③利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする

④［プランの明るさを調整］（Windows 7）または［ディスプレイの輝度を調整］（Windows Vista）を設定する

［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。

⑤［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

Q 画面表示が回転してしまった

A CTRL + ALT + ↑ キーを押してください。

正常な表示画面に戻ります。

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする
② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
③ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
④ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする
② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
③ [ポインター オプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
④ [OK] ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を､本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 1 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
  また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

付録

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk ⊖ LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、落下・振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただし、その効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任をいっさい負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

4 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6 - 4 - CD／DVDが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。
  これら以外のCD／DVDは使用できません。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンストカテゴリ５（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。
  Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ５（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
  Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ３（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については『取扱説明書』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、『取扱説明書』を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続したあと、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

❑USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには「東芝HWセットアップ」で本機能を有効にする必要があります。
  有効に設定する方法は、次のとおりです。
  ① [スタート] ボタン ( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする
  [東芝HWセットアップ] 画面が表示されます。
  ② [USB] タブの [スリープ時のUSB充電] で [有効にする (Mode1)] をチェックする
  通常は [有効にする (Mode1)] に設定してください。[有効にする (Mode1)] で本機能を使用できない場合は、[有効にする (Mode2)] に設定を変更してください。
  ③ [OK] ボタンをクリックする
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。
  バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、ACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を入れると、USB対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を切ると、正常に充電できない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続を試みてください。
- パソコン本体の電源ON／OFFと連動するUSBバスパワー (DC5V) 連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー (DC5V) の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を1000mA以下にしてください。
  その後、パソコン本体の電源をON／OFFすることで復帰します。
- 本機能の設定が有効になっていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」*1 が機能しません。
  常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能を無効に設定してください。

  *1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能はOSがWindows 7またはWindows Vistaの場合、すべてのUSBコネクタで有効です。
- 本機能を「東芝HWセットアップ」で有効にした際、⚡アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、本機能を「東芝HWセットアップ」で無効に設定してください。

eSATA対応機器の操作にあたって

- スリープまたは休止状態でパソコンのeSATA／USBコネクタにeSATA対応機器を接続しないでください。eSATA対応機器を認識できない場合があります。
  eSATA対応機器は、パソコンに電源が入った状態で接続してください。

外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示で外部ディスプレイを主ディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときに外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- すべての外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべての外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 外部ディスプレイに表示したときに、デスクトップ画面の周りに黒い帯が表示され、デスクトップ画面が外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

PCカードの操作にあたって

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止を行わずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

❏取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- 通知領域に［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］（Windows 7）または［ハードウェアの安全な取り外し］（Windows Vista）アイコン（ ）が表示されているPCカードを取りはずす場合、PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止を行わずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

8 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

9 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳しくは、「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Video を「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成された記録メディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R からCD-R、CD-RWにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを自動的にチェック（簡易チェック）するように設定されています。
  設定内容は次の手順で確認できます。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする
  「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。
  ②［データCD/DVD作成］をクリックする
  ③メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データCD/DVD設定］をクリックする

  ［データCD/DVD設定］画面が表示されます。
  ④［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
  ［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

  ⑤［OK］ボタンをクリックする

10 DVDの再生にあたって

＊ドライブ搭載モデルのみ

本項では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-Videoフォーマットまたは DVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

- 使用するDVDのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。

- DVD再生ソフト「TOSHIBA DVD PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。AVCREC、AVCHDおよびHD Recフォーマットで書き込まれたDVD、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、ACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。バッテリー駆動で再生するときは電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。
- DVDを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（⊞＋L キーまたは FN＋F1 キーを押す）をしないでください。
- Region（リージョン）コードは４回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 外部ディスプレイに表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。
  また、ご使用の環境によってはクローン表示設定でDVDを再生することはできません。

  参照 表示装置の切り替え「4章 4 外部ディスプレイの接続」
- 外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、DVD再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。

その他の注意については、「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプに記載しています。
「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプの起動は、［スタート］ボタン（⊞）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ］をクリックしてください。

付録

11 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windowsログオンパスワードやユーザーパスワードとは別にTPMに対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でもTPMで保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップウィザードを使用して、TPMをバックアップしておいてください。
  バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

  参照 バックアップウィザードについて
  TPMのヘルプ『Infineon Security Platformソリューション』

- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもTPM が交換される場合があります。
  その場合、バックアップウィザードを使用して、TPMの設定を復元してください。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 管理者（所有者）登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップのTPMに関する項目を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

- 管理者（所有者）登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ管理者（所有者）登録を行う必要があります。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）：三菱化学メディア（株）
  CD-RW（Ultra Speed）：三菱化学メディア（株）
  CD-R：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
  これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- 書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
  マルチスピードCD-RWメディア　：最大4倍速
  High Speed CD-RWメディア　：最大10倍速
  Ultra Speed CD-RWメディア　：最大24倍速
  （Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。）
  CD-Rメディア　：最大24倍速
  （最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。）
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
  書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
  これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
DVD-R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、日立マクセル（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R DL	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大6倍速	三菱化学メディア（株）
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）
DVD+R DL	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大6倍速	三菱化学メディア（株）
DVD-RW	4倍速	最大4倍速	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
	6倍速	最大6倍速	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD+RW	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア（株）
	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大8倍速	三菱化学メディア（株）
DVD-RAM	3倍速	最大3倍速	日立マクセル（株）、パナソニック（株）
	5倍速	最大5倍速	日立マクセル（株）、パナソニック（株）

これらより速い書き込み倍速に対応した記録メディアを使用しても、ドライブの書き込み／書き換え速度以上の速度で書き込み／書き換えはできません。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。
  また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
  Windows上（[コンピューター] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターを装着した状態で行ってください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、SDメモリカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  登録用ホームページ：http://room1048.jp
  商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 「7章 2 - 4 - Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

付録

HITACHI LG DVDスーパーマルチドライブGT20N
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付録

Panasonic DVDスーパーマルチドライブUJ890
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

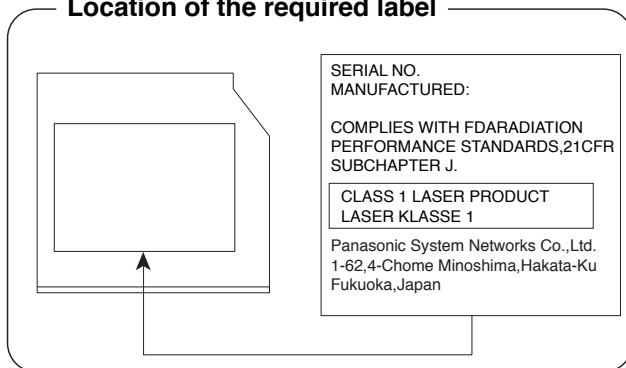
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label

TEAC DVDスーパーマルチドライブ DV-W28S
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。
   感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

TEAC DVD-ROM ドライブDV-28S
(DVD-ROM ドライブ)
安全にお使いいただくために

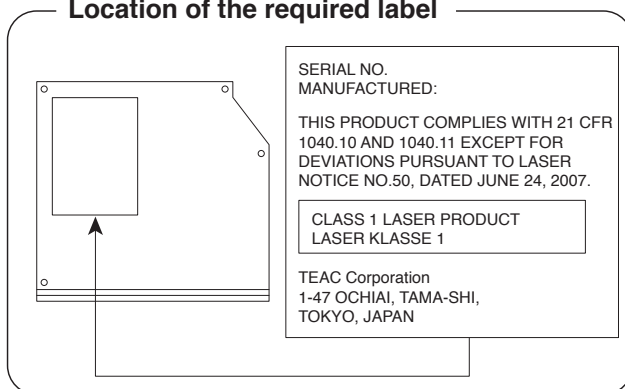
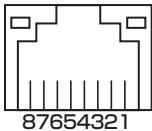
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CAUTION - CLASS 1M VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. DO NOT VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS.

VORSICHT - SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 1M, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET.
NICHT DIREKT MIT OPTISCHEN INSTRUMENTEN BETRACHTEN.

5 各インターフェースの仕様

1 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（＋）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（－）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（＋）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（＋）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（－）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（－）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（＋）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（－）	I/O
コネクタ図			

信号名　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 RGBインターフェース

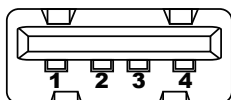
ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	グランド	
6	GND	グランド	
7	GND	グランド	
8	GND	グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	O
14	VSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	O

コネクタ図

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

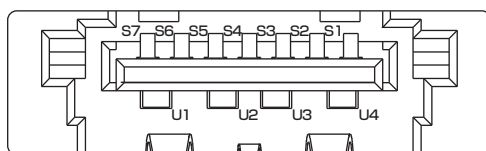
3 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	
コネクタ図			

信号名　　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 eSATA／USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
S1	GND	グランド	
S2	A+	eSATA送信プラスデータ	O
S3	A-	eSATA送信マイナスデータ	O
S4	GND	グランド	
S5	B-	eSATA受信マイナスデータ	I
S6	B+	eSATA受信プラスデータ	I
S7	GND	グランド	
U1	VBUS	＋5V	
U2	D-	USBマイナスデータ	I/O
U3	D+	USBプラスデータ	I/O
U4	GND	グランド	
コネクタ図			

信号名　　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 Windows XPモードについて

＊Windows® 7 Professionalを搭載しているモデルのみ

Windows 7 Professionalでは、仮想的にWindows XP環境を実現するための「Windows XPモード」が用意されています。
「Windows XPモード」を実行するには、次にように操作してください。

1 インストール方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

アプリケーションやドライバーのセットアップメニュー画面が表示されます。

3 ［Windows関連］タブをクリックし、画面左側の「Windows XP Mode」をクリックする

画面のメッセージに従って、「Windows Virtual PC」と「Windows XP Mode」をインストールしてください。

付録

2 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Windows Virtual PC］→［Windows XP Mode］をクリックする

Windows XPモードが起動します。
初回起動時にはセットアップが必要です。画面のメッセージに従ってセットアップを行ってください。